

右下腹部横切開を行ない腫瘍に達し穿刺しチョコレート色の漿液を4.1L吸引しようやく創外に引き出した。中間群卵巣腫瘍に準じ右附属器切除術を行なった。嚢腫内は壊死組織があり実質部に脂肪組織や毛髪がみられ、計5.61kgであった。組織的に嚢腫部分の上皮は脱落し実質部分は成熟奇形腫であった。術後経過は良好であった。

小児卵巣腫瘍の組織で成熟奇形腫、未熟奇形腫、粘液嚢胞腺腫、未分化胚腫などが大きな例として報告されているが、5kgを越えるものは珍しい。小児卵巣腫瘍の特徴や術式について検討した。

12 プピバカインによる簡便で安全なサドルブロック

中村 茂樹・須田 和敬*・小川 充**
 プラーカ中村クリニック
 新潟通信病院外科*
 県立新発田病院麻酔科**

成人の内痔核症例4例に対し、プピバカインによるサドルブロックを施行した。左側臥位でL4-5棘間(Jacoby線)から0.5%プピバカイン(商品名 マーカイン注脊麻用0.5%等比重)を1.0mlくも膜下腔に注入後ただちにJack knife体位をとり、痔核根治術を施行した。本法では一般的に用いられているジブカイン(商品名 ネオペルカミン・S)のサドルブロックに比べ、座位で「麻酔の固定」を待つ必要がなく、労力と時間が大幅に節約された。術中の痛覚は十分にブロックされ、血圧の変動もほとんどなかった。術後の合併症もなかった。等比重プピバカインは髄液内でやや低比重様の移動をするといわれ、Jack knife体位(腹臥位)では仙髄を有効にブロックすると思われる。プピバカインによるサドルブロックは簡便で安全であり、肛門領域の手術に有用と思われた。

13 オキシパー®による栄養管理が奏功した重症感染症の3例

鈴木 俊繁・佐藤 大輔・及川 明奈
 高久 秀哉・長倉 成憲・斉藤 英俊
 水戸済生会総合病院外科

n-3系脂肪酸であるエイコサペンタエン酸(以下EPAと略記)とn-6系脂肪酸であるγ-リノレン酸(以下GLAと略記)の投与による抗炎症作用や肺機能の改善作用が報告されている。オキシパー®はEPAとGLAの両方を含有し、呼吸商を考慮した低糖質高脂肪組成の経腸栄養剤である。食道癌術後の胸腔内膿瘍、食道癌術後のMRSA肺炎、および虚血性腸炎術後の呼吸不全の患者に対してオキシパー®を経管的に投与した結果、重症感染症がコントロールされ、呼吸機能が改善された3症例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。

14 腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した胆嚢管合流異常の1例

多々 孝・植木 匡・石塚 大
 田島 陽介・若桑 隆二
 刈羽郡総合病院外科

症例は51歳、女性。右季肋部痛を訴え、近医を受診し胆嚢結石症と診断され当科に紹介された。術前DIC-CTにて胆嚢管の右肝管への合流を認めたが、腹腔鏡下胆嚢摘出術の方針とした。術中胆道造影を施行し、胆嚢管の走行を確認後切離して胆嚢摘出術を施行した。術中所見では右肝動脈と胆嚢頸部が近接しており、胆嚢動脈は右肝動脈から分岐後の走行が短く、数本の分枝を胆嚢壁から剥がしながら処理した。

合流異常に対して胆嚢摘出術を施行する際には、術中造影を施行するなど十分な注意が必要である。また血管の走行異常も見られたことからCT angioなども必要であったと思われた。